夕刊
新京日日新聞
新京永樂町四丁目一番地
發行所 新京日日新聞社
發行人 十河 忠
編輯人 松本 啓二
印刷人 大谷 男郎

渡滿視察者を どうサービスする
第八回旅客案内事務打合會

新興滿洲國へ、內地及各方面からの視察旅行團体は、最近著しく增加し、本年は昨年に倍加する

＝傾向＝ であるが、最早旅行シーズンも間近に控へ、之等旅客案內事務に關する全般的改善方法につき、各關係當局で兼ねて研究準備中であつた第八回旅客案內事務打合會議は豫定通り十五、十六の兩日大連滿鐵本社俱樂部に於て開催、ツウリスト・ビユーローを始め、東京、大阪、下關各案內所、大連汽船、大阪商船、鮮鐵並に旅館、それに滿鐵側を加へて代表者卅八名參集、夫々提出の議題や重要事項に就き協議、種々改善方法及び施設等に亘り協議、大いに旅客團体の便宜を圖る事となつた右協議の主要點を要約すれば從來距離に關する觀念誇大に失したため、旅客を躊躇せしめたが、今や通信報道は軍によつて統制され又滿洲の治安も熱河を除き殆ど

＝恢復＝ され、旅客の不安は皆無なる可き事一般に周知徹底せしむる事、尚滿鐵社外線（北滿）の運轉狀況に就ては詳細に知らしめる事、敦圖線は四月完成、八月より運行實施の事、鐵道省と滿洲國內鐵道との聯絡をより密接良好にする事滿洲國の認識を深めるため從來の一般コースを改め、例へば滿洲の農業立國なる所以を知らしめんため特に施設の完備せる公主嶺農事試驗場などご參觀を慫慂する事、大連汽船には非常に船に優劣があるが、劣船は出來る丈け早く優良船に替へる事、各地の地方色を味ふため朝鮮、滿洲、ロシア式旅館宿泊を希望する向きあるも、之は衛生上面白からず、團体はなるべく日本旅館にして欲しい、最も切なる希望ある場合は

＝便宜＝ を圖る事、等であるが臨時では各方面からの要望に對し、可及的便宜と援助を與へるため、滿洲國並に文化協會其他關係當局共提携、諸般に亘り研究準備を進めて居る尚滿洲國の團体を內地に誘致する方法に就ても種々協議する所があつた、因にお會議に出席した鐵道省國際觀光局事務官平井氏並に大阪商船側代表宝塚氏外五名は十七日より廿四日迄全滿各地を觀察旅行する

貴族院豫算總會
兵備改善費を論ず

〔東京十八日發國通〕十八日の貴院豫算總會は午前十時二十六分開會され、前日に引續き質疑續行、曾我祐邦子移民の對策につき拓務、外務兩相に質し、永井拓相、瀧外務次官內田外相よりそれぞれ答辯あり、前田利定子 豫算を赤字公債で埋めねばならぬ主なる原因は兵備改善費が第一に最大なものだ首相は滿洲事件費及び兵備改善費は將來減ずるものと言はれてゐたが、私は然らずと思ふ」軍部としてはその必要とするところは忌憚なく主張せられたい

荒木陸相 現在殘つて居る四億一千萬圓を以て應急警備をする。之れは國家財政上非常に苦心したところである、八年度に於て一億五千萬圓の裝備を使用し、殘りの三億一千萬圓で九年度に財政上其他の事情が許されゝは應急の處置を執ると答へ、午前十一時五十六分散會した

菅原氏藏相と渡り合ふ
官業問題論で

〔東京十八日發國通〕今日の貴族院本會議は先づ菅原通敬氏 藏相は財政の不安を除き、基礎を確立する覺悟があるか疑はしい、政府の將來の財政計畫は立つて居ないではないかと藏相に非難を浴せ、稅制整理の必要を說き地租移讓反對論を辯じ上げ、轉じて官業問題に就き郵便料、煙草等は値上げして如何、砂糖酒の專賣の意思無きや、又生命保險を官業として如何、電力を國營として統制を圖つては如何等一時間半に亘る質問を爲すに對し

高橋藏相 菅原氏の意見は財政論で無く、會計論である、ゆつくり速記錄を拜見してからお答へする

と述べて十一時五十三分散會

爲替管理法委員會
富田局長より詳細說明

〔東京十八日發國通〕十八日の衆議院爲替管理法委員會は午前十時四十五分開會されたが、富田理財局長は議員の質問に對し、本法は資本逃避防止法を全部包含してゐるから同法に規定するものゝ全部を實行するは勿論問題とならる、爲替輸出の如きは最初から實行しなければならぬと爲替輸出取締を嚴にした

〔東京十八日發國通〕衆議院の爲替管理法委員會に於ける富田理財局長の說明要旨は左の通りである

一、資本逃避防止法に無き事項を包含せること
一、貿易管理にまで及び得る權限の付與されてゐること
一、金の鑄つぶし、密輸出を嚴格明瞭に規定せること
一、四國、壹岐、關東州にまで及ぼされること
一、但し關東州は內地とは事情異り施行の際は命令により適切なる取締りをする

議會提出の三法律案

〔東京十八日發國通〕政府は十八日正午院內に閣議を開催し、左の三法律案の議會提出を決定した

一、恩給法改正法律案
一、醫師法中改正法律案
一、齒科醫師法中改正法律案

現內閣の企業合同統制策に對する反對聲明（一）
—大日本生產黨—

我黨が過般、本邦五大電力統制問題に於て五大電力會社の持つ財政的缺陷を國家補償の途に依り國民負擔に轉嫁せんとする計畫に對し國家的見地より、反對聲明を爲せるは識者の記憶に存在する所である

×

然るに、現內閣に於て中島商相が、國家一業制度の理想を實現せんとして、勸奬に努力しつゝある企業合同統制策は其の經緯を異にする如くなれ共、其結果に於て五大電力統制問題に於けると同樣、企業會社自體の持つ財政的缺陷を特殊銀行に引受けしむる上に於て結句國民負擔に轉嫁する結果となる、一方會社側は各自の利益擁護の立場より實現難に陷る爲めに結局に於て統制效果は認められた事となる然り現經濟機構下に於ける企業統制は、經營上の缺陷に依る惡影響を國民に轉嫁し負擔を重荷せしむる事となるが故に國民大衆の生活擁護を第一とせる我黨の建前より斷乎排擊せざるを得ない、殊に我黨が默過し難きは、現內閣の企業合同勸奬の機運に乘じ、金融財閥が自己支配會社を中心として企業合同を策し、而して自己が企業會社に貸付投資を爲し回收不能に陷りつゝある債權及自己の引受け居る社債權確保の爲め金融業者相互の默契の下に、債務者たる企業會社をして競爭防止を名目として合同を勸誘し、合同後、合同會社より手を引く如く殊に大株主の權利のみを保有し置き合同會社の債務に對しては、興業銀行等の特殊銀行を中心とせる融資團を組織せしめて、之に肩替りせしめんと策謀しつゝある事にて其結果之等特殊銀行の引受けたる不良債權が國家補償として國民負擔に轉嫁せらるゝことは當然の歸結と云ふべきである

×

斯くの如きは、國民負擔を倍加するのみならず、今日既に破綻に瀕しつゝある國家財政をして、更に收拾し難きに至らしむるものにて邦家の前途の爲め憂慮に堪へぬ事と云ふべきである、之は中島商相の無定見なる企業統制策に基因すると言を俟たない、即ち金融業者は中島商相の無定見なるに乘じ、現經濟機構の缺陷を利用して、自己立場の擁護策を講ぜる譯にて、結句、中島商相の企業合同統制策は、金融資本閥擁護策に過ぎざる事を如實に暴露した譯であ

×

茲に於て、我黨は近來問題化せる郵商合同問題に於ける三菱、住友兩金融財閥の魂膽なるものを例として、中島商相の無定見なる企業合同統制策に對して。反省を促さんとする次第である

怪人凱歌（百五十一）

（禁上演映畫化）須藤鐘一
（畫）瀧 秋方

醬惡（三）

『では早速、その黑幕を取調べて下さい。あの時、あなたは態々房州までも行つて來て、確かにお絹には子供はなく、お絹も、もう死んでしまつたと仰しやつたのですわね』

と、關子未亡人は、念を押すやうにいつた。

『えゝ、それに相違はありませんです』

と、天野は受太刀。

『それなら、三木のいふことをハツキリと突きとめて下さい。いゝですか。こんなことをいつまでも曖昧にしておかれては、お互に困りますからね』

『はい〳〵承知いたしました。所で、奥樣のないことです。——所で、奥樣の御用とおつしやるのは、それだけですか？』

『それだけが大變ですからね』

『如何にも。——それでは、之れから一つ、私の用事を聞いていただき度いんですが……』と、天野は相手の顔色を窺ふ。

『と仰しやると、又お金のことではないですか。お金の御用なら、一さい御免ですよ』と、未亡人は先手を打つ。

『どうも、之れは手きびしいですな。——實は此の三十日までにはきつと眼鼻がつくのですが、例の郊外鐵道の布設の件なんです。此の際、どうしても二千圓ばかり運動費をかけておく必要があるんでして……』

『もうよして下さい。昨日は千圓今日は二千圓と、せびられ通しで此方だつてやり切れやしない。わたしだつて金の生る木をもつてる譯ぢやないんですからね。それにあなたは持つて行くばかりで一度だつてモノになつた例しがないぢやありませんか。そんなに失敗ばかりしてる人に、いくら出してもきりがありませんからね。もうそんなアヤフヤな事には、一文だつて出すのは厭です』と、未亡人はキツパリ。

『いや、決してアヤフヤの事ではありませんですよ。何なら當局を御覧に入れます、もうちやんと好都事の判までもらつてあります……』

と云ひながら、天野は、傍らにあつた折鞄を引き寄せて、美濃判紙に細々と認められた書類を幾通か取り出して、テーブルの上に並べるのであつた。

然し未亡人はそれを手に取りあげて見ようともせず、

『そんなに確かなものならば、今更運動の必要なんかないぢやありませんか。まだ運動しなくちやいけないといふのでは、ちつとも確實ぢやないぢやありませんか』

『それは屁理窟といふものですよ世の中の事は、さう理窟ぜめには行きませんので、實際私も困るんですよ。まア、あんまり責めないで、今度だけどうぞ御融通をお願ひいたします』

天野は眞劍に著くなつて哀願するのであつた。

『では、斯ういふことにいたしませうか。さつきのお話しを、よく調べていたゞいたら、もう一度だけお望みの金を御用立てるといふことに。……その代り、いつかのやうに口先ばかりではいけませんよ。わたしに納得の行くやうに調べていたゞかなくちや。いゝですか』

『よろしうございます。それはきつと一兩日中に結果を御報告いたします』

『お金は其の時ですよ』

『いや、それぢや私全く困るんです。どうか、そんな無慈悲なことを仰しやらないで、小切手でもよろしうございますから、今日お願ひいたしたいんです。是非どうかお願ひいたします。そのお金がなくては、別す〳〵十萬圓の仕事をフイにしなくちやなりませんので……』

天野は泣き聲を出して、すがりつくやうに云ふのである。

此の時、ドアをコツ〳〵とノツクする音。上女中が入つて來て、

『奥樣、お電話でございます』

『どなたから？』

『あの……』と、女中は何故か云ひ澁る。

それと察した關子未亡人は立ち上つて、

『天野さん、ちよつと御免下さいよ』

と云ひすて、廊下へ出た。

駒井滿洲國參議 昨夜突如として東上
政府及び軍首腦部と熟議の末 某方面で活動せん
再び新京には歸らぬ？

滿洲國參議駒井德三氏は十八日午後十時新京驛發列車で張景惠氏初め滿洲國關係者の見送りを受け約一ケ月半の豫定をもつて東上の途に上つた、十九日朝奉天より飛行機で福岡に至り同地で約一週間靜養の上直ちに上京帝國政府及び陸軍首腦部と熟議を遂げた後、多分三月末頃新京には歸らず一先づ奉天に歸り帝國政府及び滿洲國政府の內意を受け某方面に新に活動することとなる筈である 右駒井參議の東上は熱河問題と頗る重大關係あり、駒井參議の帝國政府及び陸軍首腦部との會見その後の某方面における活動は將來の大亞細亞政策の上に重大結果を齎すものとして各方面から注目されてゐる

陸軍首腦部參集 對聯盟決意を固む

〔東京十八日發國通〕陸軍では聯盟を中心に軍部の方針確立のため、本日午後二時陸相官邸に緊急軍事參議官會議を開き、鈴木、南、菱刈、本庄各參議官參集、荒木陸相、眞崎參謀次長、林教育總監、柳川陸軍次官等出席の上、荒木陸相は聯盟形勢、勸告案の內容及び熱河問題に就て說明した上脫退の外に方法無き旨付言して協議の結果斷乎脫退と意見の一致を見た

首相の園公訪問後 改めて閣議

〔東京十八日發國通〕政府は十八、十九兩日に亘り閣議を開き、聯盟對策を協議する方針であつたが、首相が十九日西園寺公を訪問する事になつたので、右會見結果を待つて閣議開會の筈

首相園公を訪問
重臣會議の意見交換

〔東京十八日發國通〕聯盟形勢と我對策を報告のため、齋藤總理は明十九日日曜を利用して園公訪問の豫定、重臣會議の開催に就ての意見を交換すべく豫想されて居る

松岡全權は 西比利經由で歸國

〔東京十八日發國通〕松岡全權から聯盟總會後今月末米國經由で歸朝し度き請訓に對し外務省では其後の形勢に鑑み松岡全權をシベリア經由で歸國せしむる事に決定した、右は勸告案を總會で採擇後、日本の脫退決議を實行する迄には國內にも種々の手續問題もある、松岡全權から聯盟に於ける經過を詳細聽取する必要あるためである

松岡全權 最後の放送
二十一日午後十一時から

〔ジユネーヴ十八日發國通〕松岡代表は來る二十一日午後十一時一分（日本時間二十二日午後七時一分）より午後十一時三十分迄二十九分間放送局に對し、おそらく最後となるべき放送を行ふ事となつた、放送演說の要旨は左の如し

一、聯盟に於ける日支紛爭事件審議の從來の經過大要

二、現在日本と聯盟とが如何なる關係にあるか

三、此の際日本が聯盟脫退を斷行すべきか、但し之に先立ち代表部引揚げを行ふかは冷靜な考慮を要するが國民の覺悟さえ極つて居れば何物も恐れるに當らない、代表部としては政府の訓令を待ち冷靜に善處せんとするものである

尙東京放送局から松岡代表に對して總會の終幕に際し今一度放送して貰ひたいとの依頼が有り松岡代表は目下考慮中である

蜂谷奉天總領事 午後來京

〔奉天十八日發國通〕森島總領事の後任として義に任命された蜂谷奉天總領事は、明十九日午前六時廿分奉天着安東線にて着任の筈、尙ほ總領事は同日午後三時十五分奉天發新京へ赴き、武藤軍司令官を訪ひ打合せの上歸任する

議會振肅案を可決 十八日下院本會議

〔東京十八日發國通〕衆議院本會議は午後一時十九分開會され、小切手法案を小山法相說明の後一二三の質問あり、委員附託となし豫算不足補塡の公債發行案を高橋藏相が說明しこれ又委員附託となり、衆議院法中改正法律案を緊急上程し、熊谷直太氏が議會振肅の必要を說き各派協同提案の經過を述べ富田幸次郎氏、野田文一郎氏、安部磯雄氏の贊成演說後直ちに可決された

富士山の大額を 武藤全權から執政に

〔東京十八日發國通〕滿洲國建國一周年記念日に武藤全權から溥儀執政に日本精神の象徵として富士山の大額を贈る事となり、先日來河合玉堂に依囑中の處此程出來上り十八日大使館宛て發送した 額は縱五尺橫六尺の見事なものである

鄭總理が心血を注いだ 滿洲國歌成る

旣報の鄭國務總理が自ら筆をとり、心血を注いで作詩に沒頭、過日脫稿、大連音樂學校長園山民平氏の手により作曲中であつた滿洲國國歌は本日作曲も出來上つたので發表を見たが、曲は左の如くである

滿洲國々歌

作詞 鄭孝胥

作曲 園山民平

天地內 有了新滿洲 新滿洲 便是新天地 頂天立地無苦無憂 造成我國家 只有親愛並無怨仇 人民三千萬 人民三千萬 縱加十倍也得自由 重仁義 尙禮讓 使我身修 家已齊 國已治 此外何求 近之則與世界同化 遠之則與天地同流

學良宋子文等 承德に向ふ

〔北京十八日發國通〕昨十七日午前四時張學良は財政部々長宋子文、張作相等と自動車三十臺に分乘して湯玉麟と會見の爲め熱河の承德に向つた

選擧法改正案 樞府の修正を承認

〔東京十八日發國通〕選擧法改正案は第六條の缺格事項削除其他樞府の修正に對し政府は之を全部承認し原案を撤回修正を基礎とせる改正案を作成の上、改めて上奏樞府御諮詢の手續きをとり、廿二日の樞府本會議に附議される筈

傷病兵南下

十九日午後三時三十五分着列車でハルビンより傷兵三十名來京十名は新京に殘部は鐵嶺に向ふ

○○隊が 熊本縣人會に 感謝

新京熊本縣人會は先に吉林敎化方面出動中の○○兩○○聯隊將士に慰問品に代へ金四百圓を贈つた處鷲津○隊長から會長岩坂氏宛左の感謝狀を寄せたと

謹啓、貴會益御發展奉慶賀候 扨今般當隊慰問品代として多額の金子御惠與を忝ふし誠に感激の至りに御座候近々當地所發南下致し重要任務に服する豫定に御座候間其際は肥後健兒の意氣を充分に發揮し縣人各位の御期待に添ふ如く皇國の爲め奮闘する致將兵一同覺悟致居り候間何卒御安心被下度候先右御禮申上候敬具

大亞細亞の繁榮と平和の爲盡力せん
今後の取るべき態度につき 謝外交部總長聲明

滿洲國政府に於ては聯盟の情勢變化後に於ける世界の情勢に關し滿洲國今後の進むべき動向として十八日午後三時左の如き聲明を發した

これと同時に滿洲國政府は謝外交總長の名に於て日本帝國總理大臣外務大臣、陸軍大臣在ジユネーヴ松岡代表宛に聯盟脫退勸告の電報を發した、右電報の要旨は

滿洲問題を利用し東洋に喰ひ込まんとする白色帝國主義を此際日滿兩國が一致して排擊すべきで更に大亞細亞主義の大原則に基き東洋民族は一致して邁進せられんことを希望す

尙ほ滿洲國は此際日本が須く聯盟より手を引き東洋民族團結の爲め盡力せられんことを希望するといふ意味のもので更にこれと同時に聯盟に於ては滿洲國外交部顧問フロンソンレーが各國代表に對し右と略同樣の主旨を闡明することとなつた

國際聯盟に關する 外交總長聲明

一、滿洲國政府では國際聯盟の一員に非ず、又聯盟の論議決定に拘束せらるべき何等の法理上又は道德上の理由なく苟くも聯盟にして吾主權を無視する如き言動あらんか敢然之を排擊するの用意を有すと雖も他面吾建國の大義、國運進展の狀況等に關し聯盟が啓發する如きは固より辭するところに非ず

客年五月リツトン調査團の來滿に際し、吾政府に於て之に應接し、又爾後隨時聯盟に打電して吾意圖を云したるは、一に極東の事態に不明なる彼等を啓發せんとする趣旨に出で、又客秋以來ジユネーヴに人を派したるも、是亦聯盟の行動監視と共に其の啓發に資する目的に外ならず、吾政府が聯盟をして其の論を誤らざらしめんがため致したる努力は蓋し些少に非ざりしなり

國際聯盟が當初滿洲問題に當面するや、結局リツトン調査團を極東に派遣して、事態を認識するの外能事なかりしは周知の事實なる處、該調査團は、極東問題に付き、豫備知識を缺如せる上、支那本部諸方面、殊に吾滿洲國と仇敵關係にある北支方面東北軍の陰險惡辣なる懷柔及び宣傳に甘んじ乘ぜられたる結果、其の吾國に對するや、當初より先入的偏見を以て臨み、吾國が、張家の逆政を嫌忌せる人民の自由意思により、創設せられ、國家の機能着々其の緒に就き、人民の幸福は、舊政權下に在るに比し、格段に增進せられつつある事實を認識せず、各委員本國の利己的政策的見地より立論して、一國獨立の尊嚴を蔑視し、徒らに支那本部の惡政を、再び我國內に還流せしむるに終る如き提案を爲すに至れり

然も聯盟は客秋以來の會議に於て、該調查團の報告書を以て金科玉條となし、一に是を以て事實の判斷、事件の解決の規準とせんとしたる結果遂に今日亂暴にも吾國の獨立を否認するが如き結論に到達したるが如し

二、抑々聯盟にして世界平和を理想とせば宜しく先加盟國に對し國際紛爭の原因たる關稅障壁外國人出入國の制限及外國人の差別待遇等の制度撤廢を命じ、全世界の交通通商の自由及民族平等の原則を確保すべきが至當なるに拘らず各國が口に平和を唱へつつ一方右國家障壁を高くして排他自利人種僻見の政策を恣にし禍因の累積するを默過しつつあり、是を以つて見るも聯盟が元々平和の理想に隱れて不自然なる權力平衡不公平なる現狀を維持せんとする僞善的組織なることを知るに足るべく、而して右組織は歷史的紛糾を有する多數國の犬牙輻輳せる歐洲に於ては武裝的平和維持の機構として歐洲大戰前の三國同盟、三國協商の組織に選ばざるやも知れず、然れども右組織が天涯隔絕して一切の事態を異にせる東亞に手を圖るが如きは救ふべからざる誤謬にして彼等が滿洲事件の當初より認識不足の論議を繰返したる爲め、吾國內に於ては匪賊の跳梁を助長し、外は中華民國の不良軍閥を刺戟して排日排滿の暴擧に出でしめ昨年の上海事件、馬占山及び蘇炳文の叛亂、本年の山海關事件の如き悉く聯盟の行動を誘發されたる惡果にして熱河の如きも聯盟の論議無くんば已に久しき以前に平定され、今日些の問題を貽さざりしなるべし、而して彼等は今や再び吾國三千萬の民意を無視して吾國の獨立を否認せんとす、此の如き行動は更に中華民國の軍閥朋黨を刺戟して排日排滿の行動を增長せしめ東亞の禍亂を永續する以外何等の效果なく些かも聯盟の標榜する世界平和に貢獻する所以にあらざることは極東の事情に不通なる聯盟と雖も是を知らざる道理なし、即ち聯盟は茲に全く平和の假面を脫却して露骨に亞細亞の同胞をして相喰ましめ有色民族の康寧及び擡頭を抑壓し以つて白色帝國主義の東亞に於ける成果を維持增進せんとするの野望を露骨に暴露せり

此の如き事態の下に於て友邦日本國政府及吾參府派遣の代表が吾國獨立の大義を宣揚する爲め絕大の努力を致し而も到底彼等の蒙を啓くの望無きを見て日本が元來加入すべからざりし聯盟を脫退し聯盟をして歐洲聯盟に還元せしむるの決意を爲せるは世界平和及び亞細亞民族の幸福の爲め欣快の至りにして爾今日本は歐洲の收拾すべからざる紛糾より手を引き正義公道に基き自由なる亞細亞の天地に活動するを得べく吾滿洲國は友邦として極力今回の擧を支持すると共に將來兩國議定書の精神に依り益々相互依存の關係を固め更に進んで爾餘の亞細亞各國を警醒して相協力益々亞細亞の繁榮と平和とに盡瘁すべし 最後に聯盟今回の行動が吾國の建設計畫に微毫の影響を來さざることはいふまでもなく豐富なる天然資源を開發して王道樂土の實現に精進するの決意あることを茲に聲明す

盤山縣警察指導 坂口季松氏 掃匪中戰死

〔奉天十九日發國通〕盤山縣警察指導官坂口季松氏は十七日午後盤山警察隊を率ひ縣下の殘匪を掃蕩すべく出動し、獰猛な匪賊を討伐中優勢なる匪團と遭遇交戰の結果匪團を擊破逃走せしめたが、坂口指導官外三名の警士は名譽の戰死を遂げた

關東廳警官異動

關東廳では十九日左の如く警察官の異動及び昇進を發表した

新京警察署警部 高橋重利
命范家屯警察署長
范家屯警察署同 渡邊政雄
命新京警察署勤務
營口警察署同 今村矩八
命營口警察署同 新京警察署同 千葉宗正
命新京警察署同 撫順警察署同 藤井準三
命撫順警察署同 營口警察署同 谷本兎四郎
命營口警察署同 遼陽警察署同
命遼陽警察署同 安東警察署同 阿部勇吉
命安東警察署同 貔子窩警察署同
命貔子窩警察署同 盤山警察署警部補 岸秋太
命大連水上警察署同
蘇家屯警察署同 岡田佳人
命公主嶺警察署同
[illegible]刑事課勤務 命[illegible]警察署同 岩松初次
命警務局刑事課同 木內文三
貔子窩警察署司法保安課勤務
范家屯警察署同 命新京警察署同 熊田一雄
命范家屯警察署同 平川高市
任關東廳警部補 命奉天警察署同 官吏警務局刑事課勤務
大連警察署巡查部長 松尾伍助
任關東廳警部補 命奉天警察署勤務 巡查部長 黑田平八郎
任關東廳警部補 命小崗子警察署勤務 巡查部長 敦賀正一
任關東廳警部補 命關原警察署勤務

渡邊警部から挨拶電報

十八日附新京署勤務を命ぜられた渡邊警部より本社長宛十九日左の如き挨拶電報を寄せた

昨日附任ゝ貴地に奉ずるの光榮に接す今後とも宜しく御指導を乞ふ 渡邊警部

外人の眼に「映じた滿洲國」（四）
滿洲は明に傀儡に非ず
首都警察廳 堂脇俊盛譯

相談役日本の使者に非ず

日本は直接に滿洲國全体を統制するに非ずと云ふ理由のもとに日本人相談役日本官憲の援助は各方面に於て中止されつつある、日本人相談役に密切な關係を有する誰でもが彼等相談役は日本政府か官憲の一部では決してないと云ふことを判然と力強く認識し得るであろう、彼等は多くの場合滿洲人以上に滿洲人と云ふ立場が多いのである、吾々は此の事實を證明する爲め一好例を示して見よう。

大橋忠一氏は哈爾賓日本總領事であつた、彼れは事變前外交界より引退せんと決心して居た。個人的自由の多分に含まれる新事業を希望して居た、哈爾賓の滯任は短いものであつたが其の當時張作霖父子の支配下にあつて特別行政區長官であつた處の張景惠と親交を結ぶに至つた。彼張景惠は獨立運動に引き入れられるに至つた。彼は大橋氏に相談役として來る事を乞ふた、總領事たる大橋氏は之を受諾して[illegible]

[illegible]る使又は領事の職を辭しても外國の[illegible]動、進步、自由の何物かが存する事を見て取つたのである、十四年間奉仕しても尙確定を得ない安定さを放棄して彼れは辭職し滿洲政府に這入つたのである、大橋氏は中心から長春政府そのものである。東京外務省から實際に手嫌ひされて居ると云ふ彼の人間性全部を知つて居る自分は再び切つて茲に述べたのである。個人的には好きである彼の同僚外交官達も今は外交上の敵となつた、大橋と云ふ名前は彼れが持てる處の外交手腕をよく一般が知る割合には外務省方面では知れ渡つて居ないのであるが彼は其の手腕を新滿洲國の使用に提供替をして了つたのである。彼大橋氏は同僚官吏中から離れ、流れ漂つて居るのである。彼は長春外交部次長の席に就きある身でありながら外國の[illegible]居ないのである、滿洲國に奉仕すると否とに係らず此の自我精神が彼れに反抗心を與へ今彼は彼れの進む正道に彼れの信念を見出してこれに依つて保持されて居るのである。

人の溫情味なく實際的社會的背景を有せずして只日々の骨折仕事を壓倒的反對者の面前で新國家建設の爲め盡し居る彼れ大橋氏が今迄の絨毛の床を新首府の堅き床に代へたのを誰が長く知るものぞと斷言し得るのである。其の中心に大橋氏と似た境遇の日本人は長春には多々ある、夫等の人々は誰一人として傀儡政府に働くが故に非難する人々に對して反抗せない者は一人もないのである。

それから事情を幾分異にするが最も腕利の日本人官吏で顧問である處の駒井博士が居る彼れの任命は日本及新政府に取つて[illegible]運用、科學實現經濟一般政策等之が日本との協調行動を執る爲めにその注意勸告等の人を得るの必要を認めた時であつたからである。

駒井博士は新國家に執つて熱心家で有るやなしやは知らないけれども當時一滿洲人すら知らなかつた位の日本人であつた滿洲議會の議員と協調して働かす、先般日本へ歸省したもの幾分長春政府の奬めに依つたもので自己を反省して執るに一致して居る事を了解せしむる準備手段として歸省したと云ふ話である。

滿洲は自治國家であつた筈であり、顧問者たる者は勸告の採用を嚴にし過ぎたり、又國家は必然的にそれを受理するの必要はないと云ふ事を心に銘ずべきである。

滿鐵消費組合の 撤廢方を運動
新京を中心に沿線名地の 商人が又も蒸返し

滿鐵消費組合が一般商人に取つて一大脅威であり、これが撤廢は久しい要望であるが最近又もや此の問題が蒸返され新京を中心に各中間驛在住の商人達によつて具体化される形勢である

＝近く＝

事變以來所謂滿洲景氣によつて商況は頗に活氣を呈しまた各商店の賣揚高は事變前に較べて悠に三、四倍にも上りその點には決して不滿がないはずだが、しかし何といつても滿鐵消費組合の存在は彼等に取つて一大障害であることは今も昔も變りがない、殊に大連を除く沿線各地で上景氣とは名のみで

＝何れ＝

も消費組合のために顧客を奪はれ最近では社員外の者も社員名を借りて、これを利用する向きが多く、このままでは何うしても立つてゆけないといふのである、近く各地關係者ら新京に集合のうへこれが對策を講ずることになる模樣だが、何分滿鐵消費組合の存在はなかなか重大な問題である爲常手段ではその運動も效果あらうとも思はれず成行について注目されてゐる

我熱河進撃後の後方攪亂計畫

韓國獨立黨決死隊員等の惡辣な陰謀暴發覺

〔奉天十八日發國通〕金九を首魁とする韓國獨立黨は嚢に上海に於て勢力擴張に暗躍し極秘裡に會議を續行しつゝあつたが、國民政府との默契が出來たものか彼等一味より五十名の決死隊を組織し、二月十日頃上海より北平に赴き熱河經由滿洲に潜入、我軍の熱河進撃後に於ける後方攪亂を企圖せる事が判明し、當局に於ては嚴重警戒をなしてゐる

敗走匪首等の

滿洲國攪亂陰謀暴露

一味悉く逮捕さる

二十日午前十一時記事解禁

唐聚五及び李春潤等の東北抗日救國義勇軍の陰謀事件については二月三日附掲載を禁止せられ爾來當局において犯人を檢擧取調べ中の處取調べの一段落と共に二十日午前十一時解禁された

最近張學良は永久的抗日策を決定して各種の工作員を滿洲に密派し、反日國宣傳をなし以て内部よりの滿洲國崩壞を策し或は匪賊を使嗾して治安攪亂を圖る等總有策謀を弄して失地回復に狂奔して居るが其の現れの一として曩に日滿軍の東邊道討伐によつて敗走した東北民衆自衛軍總指揮唐聚五、李春潤等は昨冬北平に逃走して張學良と謀り義勇軍の再組織を計畫中であつたが愈々其の實現を見たので此の組織を舊地盤たる東邊道並に三角地帶に移し同地方に散在して居る匪賊を糾合して一擧に此の地方を手に入るべく連絡員を派遣したとの情報があり、日滿官憲は極秘裡に活動中であつたが、遂に北平の李春潤が先發員として本溪縣第五區西麻戸附近に蟠居して居る匪首王堂の許に派遣した、東北義勇軍第三軍團特種隊上尉魯濱外一名が二月一日午後四時五十八分本溪湖驛に下車した處を警戒中の同地警察署吉元刑事が逮捕したのを端緒に本溪湖及大連水上兩警察署に於て二月十日迄に次の二十名を芋蔓式に逮捕した

一、二月一日本溪湖警察署に於て逮捕

本籍　奉天省海龍縣朝陽鎭西邊門裏張糖房院内

當時　北平打磨廠新豐旅館

東北義勇軍第三軍團副總指揮令（以下同じ）特種隊上尉　魯濱

本籍　北平新街口後張公園十五號　三〇年

東北義勇軍第三軍團第一旅（旅長劉克儉）參謀上尉　林志敏　二六年

二、二月三日同署に於て逮捕

本籍　河北省齊州縣頭平戸二四……

三、二月三日大連水上警察署に於て逮捕

上尉參謀　戴貴成　二九年

本籍　奉天省梅㟁縣上章黨

中校參謀　秦洪修　二八年

本籍　奉天省撫縣第四區得古

當時　北平鐵鼓扇羅胡同四二

國信隊員　崔榮軒　三四年

四、二月四日本溪湖警察署に於て逮捕

本籍　河北省寧河縣潘家庄

上尉參謀　馬瑞春　三六年

五、二月六日大連水上警察署に於て逮捕

本籍　奉天省新民縣大民屯

特殊隊長上校　齊洪治　三〇年

本籍　河北省新城縣方官鎭

少校營長（本溪湖、新賓、清原、寬甸の四縣軍事連絡員）　趙玉林　三四年

本籍　奉天省桓仁縣東關王家溝屯

少尉　李春潤隨員　張芝棋　二八年

本籍　河北省臨城縣高牌店

少尉副官　闕熊崙　二一年

本籍　山東省文登縣曹莊

奉天省新賓大刀會匪衆司令部下　吳鳳岐　三八年

本籍　奉天大西關王翰林胡同

當時　天津

匪首唐聚伍が東邊道僞政府組織の新賓縣知事　楊慶賢　三八年

六、二月十日同署に於て逮捕

本籍　奉天省新賓縣興街六號

當時　北平鼓樓東煙袋斜街十五號

第四梯隊長兼嚮參謀少將司令官　孫耀祖　四〇年

本籍　奉天省鳳城縣第六區大莫家堡子

當時　同上、鳳凰縣第六區自衛團大隊長敖寶山部下

少尉副官　于鏡芝　二四年

（右は李子榮より李春潤の許に派遣せられたるもの）

本籍　吉林省新京城内東四道街積善胡同

當時　北平北新橋粥舖胡同十五號

參謀中尉　姚立志事李廣財　二六年

本籍　奉天省鳳城縣高可萬屯、李春潤ボーイ　李萬財　一五年

本籍　奉天省鳳城縣宮家溝自稱東北義勇軍第三十五路司令李子榮部下衞隊副官、中尉、陶景芳事（匪首陶景文の從弟）　陶世臣　二三年

（李子榮の密使として數日前北平に派遣せしもの）

本籍　奉天省本溪湖縣霍家堡子

第一梯隊（旅長）劉克儉副官中尉　李惠亭事霍永槃

李春潤が

半僞勇軍再組織に至る經路

本籍　奉天省蓋平縣第五區郭家屯

劉克儉副官中尉里外事　寗永浮　四二年

本籍　奉天省新賓縣城内新浦街四丘

前記孫耀祖後卒　鄒殿君　二六年

乙等犯人取調の結果李春潤は北平に逃走後東北義勇軍總指揮朱慶瀾の命を承けて東北義勇軍第三軍團を組織して東邊道一帶を根據として各地に散在する數萬の匪賊、大刀會匪を糾合一齊に蹶起して熱河軍と東西相呼應し日滿軍の腹背を衝かんとする驚くべき大陰謀を企圖して其の實行に移りつゝあることが判明した、其の詳報次の如くである

李春潤は昨年四月唐聚伍と共に于芷山に背反新賓縣に移動し東北民衆自衛軍第六路司令に就任して以來救國聯合會長朱慶瀾と信書を以て密接な連絡を採り附近の大刀會匪及匪賊を

『糾合』して唐聚伍が通化に組織した東邊僞政府に隸屬し所謂通化事件後大々的に反滿抗日策を續けて益々暴威を振ひ屢々瀋海線の我守備隊並撫順の襲撃を敢行したが昨年十月日滿軍の討伐に遇ひ致命的打撃を受け漸く部下百名を連れ鳳城縣第六區に遁走同地で部下旅長たる實弟李子榮（三角地帶に蟠居し昨冬討伐を受けたるもの）に部下を委し李自身は腹心の部下十數名を連れて十一月末鳳凰縣下の海岸から戎克船に密乘威海衞に逃走の上同地において北平朱慶瀾から旅費二百圓の送附を受けて更に北平に行き張學良及朱慶瀾と直接面會して東邊道義勇軍の狀況、日本軍の討伐狀況等を報告したが、其際朱慶瀾は李春潤に對し非常な厚遇をなした後張學良の命に依り義勇軍の再組織を命じ其の

『後援』をすることゝなつた、そこで李春潤は義勇軍再組織に就て共に東邊道から逃走して來た劉克儉（本溪縣下に蟠居せし匪首で事變前小學校長たりし排日家）と相談した結果劉克儉が義勇軍當時の部下營長で現在本溪縣第五區西麻門附近に蟠居して居る匪首王堂と密使を交換して密接な連絡を遂げた其他鳳城縣に在る李子榮、王少伯、何明哉、朱荆山等の匪首とも同樣再擧に關する詳細な連絡を採り一方北平では同地方に逃れた舊部下並抗日分子を部下幹部に任命し逐次之を東邊道に先發せしめて各地匪賊を糾合し軍の編成に當らしめることゝした、李春潤自らも支給せられたる多數の武器彈藥を携帯して舊正月二十日（二月十四日）頃入觸し熱河其他各地の義勇軍と

『呼應』して一擧に滿洲を奪回することゝなつたが、斯る重大使命を與へて密派した部下幹部は目的地に到着前我警察官の嚴重な警戒に依て遂に逮捕せらるゝ所となり又武器彈藥を携へて尙上我克て潜入せんとして居る李春潤に對しても既に日滿官憲に依つて嚴重な警戒網を張らして居るから此の大陰謀も計畫中にして挫折するの止むなきに至るであらう

犯人の所持せる密書及辭令

今回逮捕した犯人中義に義勇軍として東邊道に居た者の連絡用件は口頭を以て辨し一味たる證據としては李春潤の委任狀（辭令）を所持して居るが北平に於て新に入隊した者及重要使命は此の外に密書を携帯して居る其の密書や委任狀は白絹の布片に記載されて居るもので其の隱匿方法も北平出發の際救國會女隊員に依つて着衣の脇の下等容易に發見され難い處又は蒲團の模樣の中に縫込ましたものである

榮中銀總裁邸

今朝火災に見舞はる

ボイラーの過熱から

十九日午前八時四十分頃市内入船町四丁目中央銀行總裁榮厚氏邸宅地下室ボイラー室から發火し、ボイラー室の天井を全燒し同九時鎭火した、原因はボイラーの過熱から天井に點火したものである損害三百圓の見込である

燒けた公館は『幽靈屋敷』

建築時からの挿話

別項、曙町四丁目に在る滿洲國中央銀行總裁榮厚氏邸が十九日朝失火した、幸ひ火事に至らなかつたが、どうも此建物は昔から妙な

『災危』がつゞき纏つてゐる、この家を建てたのは大正のなかば頃、吉長鐵路局滿鐵派遣の技師長某氏で、お手のもの＞設計がまだその頃は珍らしい建築樣式で、人目を聳てしめたものであつた、ところがいよく工事がすんで移り住むやうになつて間もなく同家の女中が地下室で縊れて死んだ、どうして死ぬやうなことになつたのか、原因がどうしても判らず、いろくな風説があつたが、時日が經つにつれて人も忘れてしまつた頃、その家の主は吉長を罷めて歸國することになつて家を賣りに出したが買手がつかない、それは縊れて死んだ女中の幽靈が祟つてゐるのだと云ふ噂がその頃の狹い長春の隅から隅まで傳へられたからである、やむを得ず知人に管理を賴んで内地に引揚げてしまつた、其後永らく空家になつて、たまく幽靈説を否定して只なら借りてやらうと氣の強い者が引越してみるがどうしても永續きがせず逃げ出してしまう

『幽靈』には出逢はぬが何となく陰慘な空氣はとても住むに耐へないといふのであつた、牧戸爾年何年か四季を通じて乞食のねぐらになつてゐた、扉（窓）枠などは燃へるものはポツく盗み去られてただ石と瓦が殘つたくらひ、その後また幾星霜！一昨年秋、滿洲事變の前だつた、俄かに人夫がはいつて先づ庭の掃除から始めたが、偖しはあの化物屋敷を手に入れたものがあるとみへる、知らずに買つたかだらう氣の毒なものだと噂された買主は周某といふ支那人で一兩日するうちに化物屋敷の噂が耳に入つたので慄へあがり、破約すると云ひ出したが、工事を請負つた日本人がそれでは飯の種を失ふと一生懸命に周某を說得して再び工事を始めた、さうして昔に勝る豪華な室內裝飾も出來上つたが、堅く門戸を鎖して外部から窺ひ知られぬやうな設備が加へられ、住宅としては不思議な構へだ、恐らく賭博場か何かに用ひられるのであらうと云はれてゐるうちに請負師が下請に金を拂はずに逃げたとかで

『同題』を起したり工事を始めるときな黑い獸が一疋飛び出したのをモを追出しては祟りが恐ろしいと人夫が仕事をせぬのを神官を聘してお祓ひをやり、これで大丈夫だと漸く再び工事にとりかゝらせたなどの挿話が幾つもあつた、黑い大きな獸は野良猫だつたらしいがまがつみのつきまとう家としての噂がやうやく又薄らいだ頃、例の家屋拂底で榮厚氏が公館として借へれたもので何でも最初は化物屋敷だとの噂があ、家だからやめてはとの話もあつたが、到底他に適當の家が手に入らぬので借り込んだものださうである

船客上陸まで船内立入り禁止

大連の埠頭混雜防止

〔大連支局發〕大連埠頭ペランダー附近は最近入港時に混雜甚しいため大阪商船、水上署、滿鐵の各關係者參謀協議の結果船客の上陸終るまで出迎者の船内立入りを禁止することゝした

對熱作戰總司令部

新京に設置す

滿洲國軍政部においては、かねて編成熱慮中なりし對熱作戰軍總司令部を今回新京に設置した

追想

酸鼻を極めたる尼港事件實相（二）

豫備步兵軍曹　渡邊辰次郎

五、武裝解除を申込む

三月八日此の事に關して我が石川大隊長が敵の本部を訪問して詰問したが更に要領を得なかつた、此の時又三月十三日を明して我が守備軍全部を鏖殺せんといふ計畫が判つて來た、そこで我が守備隊は塹壕や鹿砦を作つて防禦に油斷なかつた、十一日午後五時に至るとパルチザン參謀長トロモフと云ふ者が日本軍はパルチザンに干渉する權利がない、武器や彈藥を悉く借用したいから十二日の正午迄に返事をしてくれと云つて來た即ち武裝解除を要求したのである。

六、我が軍の計畫

茲に於て石川大隊長は石田領事を訪問して種々打合はせて歸つたのは其の日の八時頃であつた、大隊長はつらく思ひらくパルチザンの行動を見るに誠に慘虐云ふに忍びない事が多いから武裝解除をした後は我も露人と同じ運命に陷るを知り彼等の攻め來らざる以前に襲撃するに如かずと決心したのでつた。そこで十二日午前二時を期して攻撃を開始すべく檄を各部隊に通じた、露國の風習は皆一般に夜更しをするのを例としして居る故に午後十二時から一時頃迄はパルチザンは尙盛んに酒を飲み或は掠奪したる婦人を左右に控へて芝居見等して總有ゆる歡樂に醉ひ居る頃である即ち午前二時頃は最も彼等の油斷する頃であつた、而して我が兵力は在留民在郷軍人を合して四百十三名であるに反し（海軍の四十三名憲兵隊の十四名も含む）敵の兵力は實に四千名の多きに達し其の中一千名は支那人五百名は不逞鮮人であつた

七、我が軍の夜襲

十二日午前一時三十分石川大隊長は敵の本部を夜襲すべく出發した此の時パルチザンの首領トルペチョは我が彈丸の爲に剛膝を射貫かれ裏の支那人の雜貨商店に逃げ込んだ續いて我が軍が支那人の家に闖入したがトルペチョの地下室に居るのを發見しなかつたのは實に千秋の遺憾事であつた

八、石川少佐の戰死

夜明頃になると敵軍益々優勢となり我が軍の旗色は次第に危く全く包圍の中に陷つた次で石川少佐は路上に戰死し部下六十名中僅かに高市主計が兵卒三名を引率して本隊に合したのみであつた、同じく本部に向ひたる三上隊も死傷者續出し隊の三分の二を失ひたるも尙良く戰ひ敵を撃退して本隊に合せんとしたが途中敵と遭遇し激烈なる戰鬪を交へて戰死者續出し僅かに河本中尉が兵士十數名と機關銃一挺を率ひて本隊に歸つた

滿人民團軍に夜襲され

鄭桂林軍熱河に退却

〔山海關十八日發國通〕省境を越え熱河より奉天省内に進出し來れる鄭桂林軍の一部約二千は大房身經由北方附近において同地方の滿洲國人より成る民團軍の爲め十二日より十四日に亘り數度の夜襲を受けその鋭鋒に抗し難く大損害を蒙り遂に熱河省に後退した

盛會裡に慈善舞踊大會終る

同情週間義金募集の爲めに滿洲國協和會主催のもとに開催された慈善舞踊大會は昨夕定刻より三十分程遲れて新京高女講堂に開會された、前人氣が非常に盛だつたので盛會を豫想されてゐたが果して豫想通りで、さしも廣い講堂も文字通りに寸錐の餘地なき有樣であつた、開會に際し協主催者側代表として赤嶺氏の挨拶あり續いて新舞踊水の京都よりプログラムの進むにつれて觀衆は荒川兩孃の美技に醉ひ恍惚となつて聲を發するものもなく重苦しい樣に沈默が續く。舞踊が終る毎に拍手の連發でアンコールを要求すれば荒川兩孃は觀衆の熱誠に歡喜して聊の疲勞も見せず最後まで懸命な努力を續け、場内は非常な緊張振りで豫期以上の好果を收め、盛會裡に午後九時四十分閉會した、協和會主事者は此の豫想外の好成績に大滿悦の態であつた

靜岡小山町大火

三十六戸全燒

〔靜岡十八日發國通〕十八日午前一時半頃靜岡縣小山町に火災起り積雪七寸の爲め消防の出足惡く且貰ひ火場所三十六戸を全燒して鎭火した、損害は五萬圓、富士紡績工場の裏であつた爲め一時は大騷ぎとなつた

藤原義江氏來京

十八日午後四時着の列車にて日本のテナー藤原義江氏は來京した

滿洲婦人の萬引捕はる

十八日午後五時日本橋通新京百貨店支舖から手提バッグ二個、香油一本を所持した、挙動不審の滿洲婦人があるを新京總領事館警察署員が發見取調べると、右は市内北門外東三馬路劉李氏（二八）で、犯人は同日百貨店に客を裝ひ雜貨商市川多藏氏、同雜貨商山内晃氏方からバック、香油を萬引したものである

花街　曙のお俊

どうせ助からないもんなら本人の云ふ通りにしてやろうと疲せおとろへた彼女に紅白粉を施しお正月の晴着にこしらへた紋付裾模樣を著せ、自動車に乘せて送り出したそこの女將や朋輩は、かわいそうにねへと涙ぐんだ眼を見合せてつぶやいたが、嬉しそうににつこり笑つた彼女の顏はとても美しかつたさうである

×

ところが何といふ奇蹟だつたらう、途中で冷たいむくろとなつてだらうと豫期された彼女が歸つて來た、死相を現はしてゐた眼の椽の青黑い隈も消へてゐる、それからメキくー薄皮を剝ぐやうに病氣がなほつてしまつた、といふ哈爾濱に一つの話題を殘したこの寫眞の主

×

江戸ツ子で親父が役者、彼女も幼い時から舞台に起つてゐたが例の大震災で一家離散、彼女は青島で藝者になつたが後に長春に來て藝酒家で江戸龍と名乘てゐた、演藝會で加賀見山のお初なんか演つて大喝采を博したものだつた哈爾賓に替つてそれから又長春に戻つた、今では曙でおしゆんといふ、傳兵衛さんに當る人の名は？？？

白井喬二氏の傑作

作者自ら大膽にやつてのけると云ふ奔放無類奇想天外の面白い小說が「日の出」三月號から發表あまりに面白いので讀者大騷ぎ。

日の出愈々大盛況

三月號發賣以來物凄い人氣の「日の出」は附錄に本文に人氣沸騰の名篇澤山で斷然誌界第一の賣行だ。

多門師團實戰談

師團長以下各幕僚が第二師團司令部で語つた壯烈な實戰談百回の思出話「日の出」二月號に發表大評判。

凄艶紅涙刄（せいえんこうるゐじん）

（上海事變）　鈴木彦次郎作　飛鳥久雄畫

（二二）

いかに、抜刀隊長でも、武器がなくては戰へぬ。路次を突きぬけて、裏田甫にでた。遠日の大雨で田は一面の水。三四間後には、相手のせまる足音強く——行手は、泥にまみれた畦道一すぢ。折惡しく味方の兵の姿もみえぬ。せん術盡きて、大川は唯一人逃竄——畦道をたどつて走るだが、すべる、のめる、踏み込む。——あせれば、あせるほど、道ははかどらず。つひに、お足を泥にとられて、もがくおりしも、追ひすがつた雄馬。

「觀念しろ！」

怒號諸とも、振おろした一擊に無慚や、大川抜刀隊長、おのれが脇差で、後ざまに、右肩からきりさげられ、泥田の中にもんどりうつて打ち倒れた。

——雄馬は、漸く、ほづさした瞬間、まさしく、北の方角に、突如、わきおこる、雄叫びが、耳にはびつた。

これぞ、尾州大垣の大部隊が計畫どほり、今しも長岡勢の背後にせまつた鬨の聲である。

——やア、しまつた、郎黨にまかせ、無益な敵さわたり合意外にときを費したぞ。

やつと、我にかへつた、雄馬忽ちいまきた道を取つて返しまつしぐらに坂下へかけつけたが、ときすでにおそく、長岡勢は挾擊をおそれ必死となつて血路を開き、福井方面になだれをうつて、逃かゝつてゐる矢さき。

味方は、三浦隊長の勇ましい下知のものに、かさに掛つて、追擊中むろん、雄馬も、取敢ず、眞さきかけて突進したが、何せ、亂軍のおびだ、甲子松のすがたは、容易にみつからぬ。

その内に、戰機を素はやくみてとつた三浦隊長は、逃る敵ならば、援軍にまかせ十九番隊士に合を命じたから、雄馬も止むを得ず、探求を諦めてひきかへした痛恨、暫し、——雄馬は、血氣の勇にはやつて空しく絕好の機會を逸し去つたこゝに、泣いて唇をかんだだが、この一戰、奇兵隊の新鋭が、謀略圖にあたつて、見ごと強敵を追ひけた奇勝は、とかく、萎縮してゐた西軍の士氣を、大いに鼓舞した。

——折りから長州の報國隊矢振武隊をはじめ、薩摩、藝州、明石備前の諸藩の援兵は續々、來着した。

かくて、意氣ますますあがる矢先大總督府總參謀大村益次郎は北越方面の戰況、至つてはかばかしくない樣子を慨嘆して、激勵の長文を傳達してきたから、全軍、腕を扼してふるひたつた。

山縣參謀も、愈々決戰をおもひ立ち、各藩部將を本營に集め、一擧同盟軍を全滅せんとはかつた。

軍議一決、——參謀は、とかく薩長兩藩の兵は、互に功を競つて内紛を生じ勝なのを憂ひて、まづ全軍を二つにわかち薩兵をば平地をすゝんで今町日より攻擊する本隊の先鋒とさだめ、山道をたどつて栃尾に侵入する別軍の先頭には、長州兵を以て任じ、七月廿五日の朝を期し、兩軍相呼應して決然、敵陣を襲擊する計畫を立てた。

然るに、此の密策は、早くも、蒼龍窟の耳に入つた。

何故か？——長岡に居殘つてゐる町民は、婦女老幼に至るまで、悉く、牧野家の善政を慕つてゐるすべて、蒼龍窟の恩顧に、感激してゐる。

だから、どうやら、西軍の本營が勢ひだつた模樣を怪しんで、いち早く、見附に滯陣中の蒼龍窟に告げた。

二月二十日（舊正月廿六日）　月曜　丁巳　友引　平　危宿

●一白の人　順調には向へども相談事は不調と知るべし　乙と丁と亥が吉

●二黑の人　一家能く氣が揃ひて圓滿裏に仕事の運ぶ日　乙と辛と壬が吉

●三碧の人　內外協調を保ち健全に進めば出世の途開く　丙と亥と癸が吉

●四綠の人　苦を通り拔けて追々と吉運に向ふべき吉日　丁と亥と壬か吉

●五黃の人　緩急其の宜しきを得ば意外の發展を見る日　甲と乙と辛が吉

●六白の人　定業以外の事業には成るべく手控へを要す　申と辛と亥が吉

●七赤の人　河に臨み舟備なき如く進路塞がり勝ちの日　乙と申と庚が吉

●八白の人　氣を締めて勵めば物事通達すべき吉日とす　卯と乙と辛が吉

●九紫の人　迷ふ事あらば長者の差圖に依るが安全の日　丙と丁と癸が吉